

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	福山医療専門学校
設置者名	学校法人 福山医療学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	作業療法学科	夜・通信	20単位	12単位	
	理学療法学科	夜・通信	18単位	12単位	
	救急救命学科	夜・通信	9単位	9単位	
	看護学科	夜・通信	18単位	9単位	
文化教養専門課程	スポーツ健康学科	夜・通信	7単位	6単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.fukuiro.ac.jp/fukuyamairyo/koukai/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福山医療専門学校
設置者名	学校法人 福山医療学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示又は情報公開請求により開示する。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 代表	2025/6/20- 2029/6/19	経営計画の策定
非常勤	他法人 役員	2025/6/20- 2029/6/19	経営計画の策定
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福山医療専門学校
設置者名	学校法人 福山医療学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 福山医療専門学校の教育目標は「自利利他の心を持ち合わせた、地域社会に貢献できる人材を育成する」ことである。 基本的な視点として、以下の3項目に重点を置いて、教育課程を構成している。 (1) 国家資格の取得は、専門職として必要不可欠の質を担保するものである。よって、国家試験の受験資格を取得させる。 (2) 専門基礎分野を配置して、医学の基本の習得と豊かな人間性を育む。 (3) 専門科目と実技を連携させ、臨床実習・現場実習を基礎からしっかりと行うことができる。よって、国家資格の取得や検定試験での資格取得とその後の臨床現場での活躍につながる。 上記内容を包括して、各学科授業計画を作成している。これらに基づき、各科目担当者がシラバスを作成している。 具体的には、授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した電子シラバスのフォーマットを作成し、所定の方式で各教科担当者が記入している。 それらを各学科長が、学校や各学科の教育基準の視点に沿って、公表するに妥当な形に体裁が整えられていることを確認している。 〈シラバス作成及び公表に伴う時期〉 11月下旬：シラバス作成依頼 12月上旬：シラバスチェック 2月上旬：シラバス修正 2月下旬：シラバス最終チェック 3月上旬：シラバス完成 4月1日：シラバス公開	
授業計画書の公表方法	https://www.fukuiryo.ac.jp/fukuyamairyo/koukai/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスに SB0s (経験目標) や予習・復習内容及び時間配分を詳細に記述し、それを学生に浸透させている。 〈評価方法〉 1. 形成的評価 単元ごとに定期的に小テストを実施して、学習の理解度を把握する。 2. 総括的評価 最終講義で期末試験、またはレポート作成などを実施して、到達度を評価する。 〈単位認定〉 科目担当教員が定期試験等で成績を算定後、学科会議、進級判定会議の議を経て、学校長が単位認定する。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 100 点満点の平均値制度により、上位 1/2、下位 1/4 の分布を表に示すと共に、成績リストを作成する。学生個人には、個々の成績順位を伝え、それぞれに目標を再設定させ、担当教員にはそのリストを基に、カスタマイズした教育を展開する。 〈客観的な指標の算出方法〉 履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100 点満点で点数化する)	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.fukuiryo.ac.jp/fukuyamairyo/koukai/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は教育課程表に示す通りとする。 また、本校教育目標の一つである「地域社会に貢献できる人材」になるために、各領域実習では対象者やそのご家族、医療・福祉スタッフとのコミュニケーション能力を高めることを重要視している。医療・福祉チームの一員として、対象者・そのご家族に、より良いサービスが提供できる能力を身につけるため、まずは「挨拶ができる」人間になろうと指導を行っている。毎日の登下校の際に行う教職員の挨拶運動から始まり、授業の際の号令挨拶など徹底して指導を行っている。さらに、掃除についても重視しているので、放課後等に時間を設け、使用した教室などを学生自ら掃除をしている。この清掃活動も社会性を身につけさせるために行っている。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	事務局窓口にて希望者全員に閲覧

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	福山医療専門学校
設置者名	学校法人 福山医療学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	事務局窓口にて希望者全員に閲覧
収支計算書又は損益計算書	事務局窓口にて希望者全員に閲覧
財産目録	事務局窓口にて希望者全員に閲覧
事業報告書	事務局窓口にて希望者全員に閲覧
監事による監査報告（書）	事務局窓口にて希望者全員に閲覧

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

作業療法学科

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	作業療法学科			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	146 単位	106 単位	14 単位	26 単位	単位	単位
			146 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		74 人	0 人	6 人	8 人	14 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 基本的な視点として以下の3項目に重点を置き教育課程を構成している。 （1）国家試験は、専門職としての必要不可欠の質を担保するものである。よって、国家試験の受験資格を取得させる。 （2）専門基礎分野を配置することで豊かな人間性を育み、医学の基本を習得させる。 （3）専門科目と実技を連携させて配置し、現場を重視した職業観を養成するため、自らが主体的に臨床実習へ参加していく姿勢を身につけさせる。
成績評価の基準・方法
（概要） 学内で使用している成績管理簿に、従来からの4段階評価（A・B・C・E）と100点満点の平均点と併せて評価を行う。（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）シラバスにSB0s（経験目標）や予習・復習内容とその時間配分及び評価法を詳細に記述し、それを学生に浸透させている。 <評価方法>

1. 形成的評価 単元ごとに定期的に小テストを実施して、学習の理解度を把握する。 2. 総括的評価 最終講義で期末試験、またはレポート作成などを実施し到達度を評価する。 〈単位認定〉 科目担当者は所定回数の授業終了後、科目担当者と担任との共同で、授業毎に評価方法を調整し、評価結果を学科長に提出する。学科会議等を経て、学校長が単位認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。 （1）講義及び演習については、15時間から30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。 （2）実験、実習及び実技については、30時間から45時間の範囲内で定める。 （3）臨床実習、臨地実習については、40時間から45時間の授業をもって1単位とする。 所定の講義・実技・実習などの単位を修得した者に進級させる。卒業に必要な単位を修得した者に学校長が卒業を認定する。 〈ディプロマポリシー〉 地域社会に根差す人材になるために、医療・介護・健康福祉チームの一員として、豊富な知識・技術と豊かなコミュニケーション力を身につけるとともに、対象者に寄り添ったサービスができる能力を身につける。 そのために、幅広い教養の習得、豊かな感性の習得、人間理解に努めることによりコミュニケーション能力を高め、他者と関わる豊かな心を持つ。
学修支援等
（概要） クラス担任・副担任制、国家試験担当教員による個別指導・面談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21人 (100%)	0人 (0%)	21人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 病院、個人医院			
（就職指導内容） 就職活動時のルール指導、履歴書作成指導、面接指導			

(主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
87 人	5 人	5.7%
(中途退学の主な理由) 学力不振、進路の再検討		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人と面談を行ない、また、保護者とも連絡を取り、方向性を見極めた。		

理学療法学科 昼間部

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	理学療法学科			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	147 単位	112 単位	13 単位	22 単位	単位	単位
			147 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		125 人	0 人	5 人	10 人	19 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 基本的な視点として以下の3項目に重点を置き教育課程を構成している。 (1) 国家試験は、専門職としての必要不可欠の質を担保するものである。 よって、国家試験の受験資格を取得させる。 (2) 専門基礎分野を配置することで豊かな人間性を育み、医学の基本を 習得させる。 (3) 専門科目と実技を連携させて配置し、現場を重視した職業観を養成する ため、自らが主体的に臨床実習へ参加していく姿勢を身につけさせる。
成績評価の基準・方法
(概要) 学内で使用している成績管理簿に、従来からの4段階評価（A・B・C・E）と100 点満点の平均点と併せて評価を行う。（授業科目の学修成果の評価に係る取組の 概要） シラバスに SB0s（経験目標）や予習・復習内容とその時間配分及び評価 法を詳細に記述し、それを学生に浸透させている。 <評価方法>

1. 形成的評価 単元ごとに定期的に小テストを実施して、学習の理解度を把握する。 2. 総括的評価 最終講義で期末試験、またはレポート作成などを実施し到達度を評価する。 〈単位認定〉 科目担当者は所定回数の授業終了後、科目担当者と担任との共同で、授業毎に評価方法を調整し、評価結果を学科長に提出する。学科会議等を経て、学校長が単位認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。 （1）講義及び演習については、15時間から30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。 （2）実験、実習及び実技については、30時間から45時間の範囲内で定める。 （3）臨床実習、臨地実習については、40時間から45時間の授業をもって1単位とする。 所定の講義・実技・実習などの単位を修得した者に進級させる。卒業に必要な単位を修得した者に学校長が卒業を認定する。 〈ディプロマポリシー〉 地域社会に根差す人材になるために、医療・介護・健康福祉チームの一員として、豊富な知識・技術と豊かなコミュニケーション力を身につけるとともに、対象者に寄り添ったサービスができる能力を身につける。 そのために、幅広い教養の習得、豊かな感性の習得、人間理解に努めることによりコミュニケーション能力を高め、他者と関わる豊かな心を持つ。
学修支援等
（概要） クラス担任・副担任制、国家試験担当教員による個別指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	24 人 （ 96.0%）	1 人 （ 4%）
（主な就職、業界等） 病院、個人医院			
（就職指導内容） 就職活動時のルール指導、履歴書作成指導、面接指導			

(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
134 人	9 人	6.7%
(中途退学の主な理由) 進路の再検討、学力不振、精神的症状		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席が2回～3回続いたら速やかに個別面談実施、担任制による学生管理の徹底 保護者とも連携を密に取り、個々に応じた対応を行っている 学科会議等を実施し、学生の学習状況の変化を全教員で把握している		

救急救命学科

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	救急救命学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	125 単位	100 単位	単位	26 単位	単位	単位
			125 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		68 人	0 人	4 人	9 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 基本的な視点として以下の3項目に重点を置き教育課程を構成している。 (1) 国家試験は、専門職としての必要不可欠の質を担保するものである。 よって、国家試験の受験資格を取得させる。 (2) 専門基礎分野を配置することで豊かな人間性を育み、医学の基本を 習得させる。 (3) 専門科目と実技を連携させて配置し、現場を重視した職業観を養成する ため、自らが主体的に臨床実習へ参加していく姿勢を身につけさせる。
成績評価の基準・方法
(概要) 学内で使用している成績管理簿に、従来からの4段階評価（A・B・C・E）と100 点満点の平均点と併せて評価を行う。（授業科目の学修成果の評価に係る取組の 概要） シラバスに SBOs（経験目標）や予習・復習内容とその時間配分及び評価 法を詳細に記述し、それを学生に浸透させている。

〈評価方法〉 1. 形成的評価 単元ごとに定期的に小テストを実施して、学習の理解度を把握する。 2. 総括的評価 最終講義で期末試験、またはレポート作成などを実施し到達度を評価する。 〈単位認定〉 科目担当者は所定回数の授業終了後、科目担当者と担任との共同で、授業毎に評価方法を調整し、評価結果を学科長に提出する。学科会議等を経て、学校長が単位認定する。			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。 (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。 (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の範囲内で定める。 (3) 臨床実習、臨地実習については、40時間から45時間の授業をもって1単位とする。 所定の講義・実技・実習などの単位を修得した者に進級させる。卒業に必要な単位を修得した者に学校長が卒業を認定する。 〈ディプロマポリシー〉 地域社会に根差す人材になるために、医療・介護・健康福祉チームの一員として、豊富な知識・技術と豊かなコミュニケーション力を身につけるとともに、対象者に寄り添ったサービスができる能力を身につける。 そのために、幅広い教養の習得、豊かな感性の習得、人間理解に努めることによりコミュニケーション能力を高め、他者と関わる豊かな心を持つ。			
学修支援等			
(概要) クラス担任・副担任制、補講等による国家試験対策			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	10人 (52.6%)	9人 (47.4%)
(主な就職、業界等) 消防組合			

(就職指導内容) 就職活動時のルール指導、履歴書作成指導、面接指導
(主な学修成果 (資格・検定等)) 救急救命士、自衛隊、一般企業
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66 人	5 人	7.6%
(中途退学の主な理由) 進路の再検討、学力不振、精神的症状		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席が2回～3回続いたら速やかに個別面談実施、担任制による学生管理の徹底 保護者とも連携を密に取り、個々に応じた対応を行っている 救命士を活かせる職業への興味を持たせるようにしている		

看護学科

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	108 単位	85 単位	単位	23 単位	単位	単位
			108 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		57 人	0 人	11 人	28 人	39 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 基本的な視点として以下の3項目に重点を置き教育課程を構成している。 (1) 国家試験は、専門職としての必要不可欠の質を担保するものである。 よって、国家試験の受験資格を取得させる。 (2) 専門基礎分野を配置することで豊かな人間性を育み、医学の基本を 習得させる。 (3) 専門科目と実技を連携させて配置し、現場を重視した職業観を養成する ため、自らが主体的に臨地実習へ参加していく姿勢を身につけさせる。
成績評価の基準・方法
(概要) 学内で使用している成績管理簿に、従来からの4段階評価 (A・B・C・E) と 100 点満点の平均点と併せて評価を行う。(授業科目の学修成果の評価に係る取組の

概要) シラバスに SB0 s (経験目標) や予習・復習内容とその時間配分及び評価法を詳細に記述し、それを学生に浸透させている。 〈評価方法〉 1. 形成的評価 単元ごとに定期的に小テストを実施して、学習の理解度を把握する。 2. 総括的評価 最終講義で期末試験、またはレポート作成などを実施し到達度を評価する。 〈単位認定〉 科目担当者は所定回数の授業終了後、科目担当者と担任との共同で、授業毎に評価方法を調整し、評価結果を学科長に提出する。学科会議等を経て、学校長が単位認定する。
卒業・進級の認定基準 (概要) 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。 (1) 講義及び演習については、1 5 時間から 3 0 時間の範囲内で定める時間の授業をもって 1 単位とする。 (2) 実験、実習及び実技については、3 0 時間から 4 5 時間の範囲内で定める。 (3) 臨床実習、臨地実習については、4 0 時間から 4 5 時間の授業をもって 1 単位とする。 所定の講義・実技・実習などの単位を修得した者に進級させる。卒業に必要な単位を修得した者に学校長が卒業を認定する。 〈ディプロマポリシー〉 地域社会に根差す人材になるために、医療・介護・健康福祉チームの一員として、豊富な知識・技術と豊かなコミュニケーション力を身につけるとともに、対象者に寄り添ったサービスができる能力を身につける。 そのために、幅広い教養の習得、豊かな感性の習得、人間理解に努めることによりコミュニケーション能力を高め、他者と関わる豊かな心を持つ。
学修支援等 (概要) クラス担任・副担任制、チュートリアル教育を導入し、国家試験担当教員による個別指導・面談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21 人 (100%)	0 人 (0%)	18 人 (85.7%)	3 人 (14.3%)

(主な就職、業界等) 病院
(就職指導内容) 就職活動時のルール指導、履歴書作成指導、面接指導
(主な学修成果（資格・検定等） 看護師
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64 人	2 人	3.1%
(中途退学の主な理由) 進路の再検討、学力不振、精神的症状		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制のみだけでなくチューター制を導入 学科会議等で学生状況の変化、学習の進捗度を情報共有 看護師への興味、関心を持つようにしている		

スポーツ健康学科 ※2025 年 4 月新設

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	スポーツ健康学科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	95 単位	34 単位	4 単位	3 単位		6 単位	
			47 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
30 人		12 人	0 人	3 人	0 人		3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 基本的な視点として以下の 3 項目に重点を置き教育課程を構成している。 (1) 検定試験は、専門職としての必要不可欠の質を担保するものである。 (2) 専門基礎分野を配置することで豊かな人間性を育み、健康福祉の基本を習得させる。 (3) 専門科目と実技を連携させて配置し、現場を重視した職業観を養成するため、自らが主体的に現場実習へ参加していく姿勢を身につけさせる。
成績評価の基準・方法

（概要） 学内で使用している成績管理簿に、従来からの４段階評価（Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｅ）と１００点満点の平均点と併せて評価を行う。（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） シラバスに SB0 s（経験目標）や予習・復習内容とその時間配分及び評価法を詳細に記述し、それを学生に浸透させている。 〈評価方法〉 1. 形成的評価 単元ごとに定期的に小テストを実施して、学習の理解度を把握する。 2. 総括的評価 最終講義で期末試験、またはレポート作成などを実施し到達度を評価する。 〈単位認定〉 科目担当者は所定回数の授業終了後、科目担当者と担任との共同で、授業毎に評価方法を調整し、評価結果を学科長に提出する。学科会議等を経て、学校長が単位認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。 （１）講義及び演習については、１５時間から３０時間の範囲内で定める時間の授業をもって１単位とする。 （２）実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間の範囲内で定める。 （３）現場実習については、４０時間から４５時間の授業をもって１単位とする。 所定の講義・実技・実習などの単位を修得した者に進級させる。卒業に必要な単位を修得した者に学校長が卒業を認定する。 〈ディプロマポリシー〉 地域社会に根差す人材になるために、医療・介護・健康福祉チームの一員として、豊富な知識・技術と豊かなコミュニケーション力を身につけるとともに、対象者に寄り添ったサービスができる能力を身につける。 そのために、幅広い教養の習得、豊かな感性の習得、人間理解に努めることによりコミュニケーション能力を高め、他者と関わる豊かな心を持つ。
学修支援等
（概要） クラス担任・副担任制、検定対策担当教員による個別指導・面談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他

人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項) 2025 年 4 月新設			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
作業療法学科	300,000 円	1,280,000 円	360,000 円	休学中の在籍料（全期）
理学療法学科	300,000 円	1,280,000 円	360,000 円	休学中の在籍料（全期）
救急救命学科	300,000 円	1,280,000 円	360,000 円	休学中の在籍料（全期）
看護学科	300,000 円	1,280,000 円	360,000 円	休学中の在籍料（全期）
スポーツ健康学科	200,000 円	900,000 円	360,000 円	休学中の在籍料（全期）
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 事務局窓口にて希望者全員に閲覧
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
1. 基本指針 福山医療専門学校における自己点検・自己評価活動の客観性・透明性を担保し、教育活動その他の学校運営の改善等に活用するため、学校関係者による評価を行い、その意見を反映させることを目的として、学校関係者評価委員会を置く。 2. 委員会の開催 年に 2 回以上開催する。（9 月、3 月の開催と必要に応じて臨時開催） 3. 評価項目 （1）教育課程の編成に関する事項 （2）学生の単位取得に関する事項 （3）授業時間割の編成に関する事項 （4）学生の履修指導に関する事項 （5）定期試験、追試験、再試験等に関する事項 （6）その他 4. 評価結果の報告 委員会は結果を福山医療学園理事会に報告する。 5. 委員の任期 1 年を原則として、再任を妨げない。 6. 体制 委員会の体制は、学校長が選任する。 ①地元企業関係者 2 名 ②卒業生 2 名 ③その他教育に関する有識者 2 名

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株 式 会 社 役 員	令和7年4月1日から 令和8年3月31日	地元企業関係者
独 立 行 政 法 人 職 員	令和7年4月1日から 令和8年3月31日	地元企業関係者
学 校 法 人 校 長	令和7年4月1日から 令和8年3月31日	その他教育に関する 有識者
学 校 法 人 監 事	令和7年4月1日から 令和8年3月31日	その他教育に関する 有識者
医 療 法 人 職 員	令和7年4月1日から 令和8年3月31日	卒業生
医 療 法 人 職 員	令和7年4月1日から 令和8年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fukuiryo.ac.jp/fukuyamairyo/koukai/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fukuiryo.ac.jp/
--